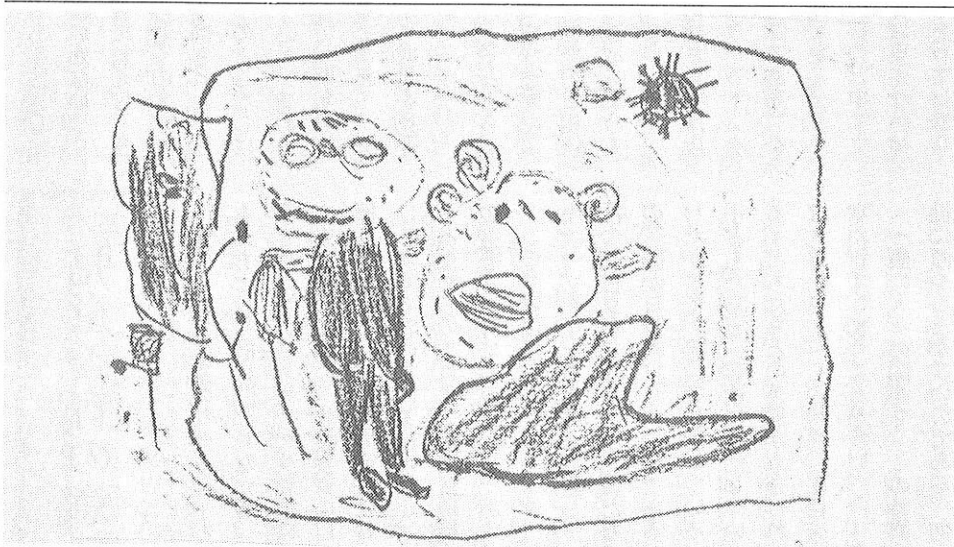


# 光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家  
 編集／光の子 編集委員会  
 〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277  
 TEL／0480-72-3883  
 振替／東京3-128022  
 印刷／(株)ドモン企画



おにいちゃんといっしょ

3才 おおさか ゆうこ

まり安定があるのである。  
 聖書で四の字は決して忌み嫌われる数字ではない。民数記には、代々衣服のすその四すみに、青ひもで房をつけさせ、主のいましめを思い出させるようにせよと、あ

る。二や四は対であって物事が納得する。二や四は対であって物事が納得する。二や四は対であって物事が納得する。二や四は対であって物事が納得する。

房を垂らしている。  
 中国では奇数より偶数が喜ばれる。二や四は対であって物事が納得する。二や四は対であって物事が納得する。二や四は対であって物事が納得する。

語呂合わせは二〇〇年前の江戸時代ころから流行した。それ以前四の字が嫌がられたのかどうか、わたしは知らないが、国技である相撲は中国の宮殿作りになぞらえて四本柱を備えている。北が正面で黒房、南は赤、東は青、西は白

箒を持たせて百まで生きるボーズをとるかと思うと、病院では四号という病室はない。四は死に通じてこれを厭う。

本人は、それによって時には楽しい諧謔となり、時には嫌な思いに打ち沈む。

心身ともに成長しているさまを前に

わけではない。  
 施設は苦難を経て開設四年目にはいった。緊張の連続だった職員たちも、ここらで、それを緩めて一息入れたいところである。

著・早乙女訳・呪術、筑摩叢書  
 とところで興味本位で四の字に関わりある事項を漁って弄んでいるわけではない。

に証している。  
 序ながら一三の数を忌む風習は直接キリスト教からではなく他の系統からである。(P・ヒューズ

四の数が多し。  
 四福音書は四人の弟子によってあるいはヘブル人向けに、あるいはギリシヤ系の人たちに、イエスがキリストであることを丹念に証している。

間をあらわしている。  
 エゼキエル書やヨハネ黙示録には、四つの生きものや角といった四の数が多し。

## 開設四年目

(ルカ・十三・六)

理事長 福島 勲

### 児童養育の意義

施設長 今関 公雄

にして、一日たりとも手抜きして安閑とするわけにはいかない。四年目は聖書の譬で言えば、三年間、実のないいちじくの木が、所有主によって切り倒されようとする。しかし、園丁のとりなしによって、今年猶予され、まわりを掘り、肥料を施して、明年の実のりを待つ年である(ルカ・一三章六節) 許されしかも成果を見守られている年である。

所管庁、一般有志、子どもら、職員、この四者の緊密な連携により、指導、援助、精励努力と相俟ってよりよい効果の達成を願うものである。

激しい波打際に敷設されて護岸の役目を果たすテトラポット(テトラとはラテン語で四である)を思わしめる四の効用である。

われわれの懸命の努力は申すまでもないが、その奥に見えない神のみ手のあることを忘れてはならない。

四年目も従来の年と同様に、恵みに満ちた年であることを信じる。また、そうあってほしいと心より念じている。

光の子どもの家のなかで、子どもたちと日常的に関わりながら、子どもたちのこれまでの生育歴に心懸つことが多い。施設養育の目標を、さしあたり普通の家庭における養育においているわけだが、子どもたちのこれまでの生育環境の劣悪さが身にしみるからである。

この生育環境におけるハンディキャップを子ども自身が克服し、社会的自立ができるよう職員たちの苦闘が日夜続けられるのである。したがって、施設で生活している子どもたちと、普通に生活している子どもたちとの差異が大きければ大きいほど、その特異性に目を奪われてしまうことが多い。

一般に人々の関心も、この特異性に傾くことが多いのである。勿論、施設児童の不遇な生育環境への正しい理解と温かいご支援を期待したい。ただ、子どものもつ共通の特質から子どもを見ていくという視点が必要と思うのである。

つまり、施設であろうが家庭であろうが生活している場所の違いで子どもを区別せず、子どもの持つ特質を理解した上で養育の意義を再確認したい。そうでなければ両者の垣根は超えられない。

子どもの特質は、概ね次の三点で考えられよう。

すべての子どもは、大人や社会の保護を必要としている。福祉的視点からの要保護性である。

すべての子どもは、障害を持つ持たないにかかわらず、どんな場合でも発達の可能性を内在している。発達可能態である。

すべての子どもは、次代を担う存在である。世代継承という社会的視点からの潜在主権者である。

このように見ると、子どもの特質はすぐれて未来的資質に富んでいるのである。「今日、社会が子どもを守り、明日、子どもが社会を造る」という標語に注目したい。たしかに、養護施設で子どもを

養育することは、どんなに条件を整えたとしても、決して容易なものではない。条件を整えるだけでも、物心両面での社会的負担は相当なものなのである。しかし、明日の社会を築く主人公が、子どもたちであり、光の子どもの家の子どもたちも、まぎれもなくその群れのなかに数えられていることは厳粛な事実なのである。

折しも、高学歴社会を反映し、教育投資としての受験戦争時代の只中に子どもたちは漂流している。「親なく、家なく、学歴もなく」といわれる養護施設から巣立つ子どもたちの前途には険しい状況がある。明日の社会や世界を熟慮し、真摯に展覧手するとき、子どもの養育実践の重い使命を感ぜさせられる日々である。

彼らがどう育てられて成長したかは、かれらの子どもたちが継承し、子々孫々へと展開されていくという意義を持つものなのである。これらの社会的意義をふまえつつ、今日一日の子どもの養育のために、全身全霊を傾注していきたいと願うものである。

エッセー

### 笑

黛 執 (俳人)

笑いは突然起こった。

なんのための笑いかは、最初に笑い出した当の少女でさえ判らなかつた。

アフリカ東海岸のある未開国でのことである。国連の援助で出来上がったばかりのミッション・スクールをなかで、その笑いは、突如ひとりの女生徒を襲ったのである。

色は黒いが慎み深いその少女ははじめ、この奇怪な笑いの衝動を小さな旨のなかで圧殺しようと思命になったのだが、こらえればこらえほど笑いかたまりは膨らんで、とうとう彼女の全身をゆすって飛び出してしまったのだ。

すると、その笑いが乗り移りでもしたように、こんどは隣の席の少女が机をふるわせて笑い出した。笑いはたちまち教室中の少女たちに伝染した。

笑いをたしなめようとした若い女教師までが、チョークを放り出

して笑いはじめたのである。

笑いのなかで教師は、自分が少女たちを教えていることが、なぜか急にばかばかしいことのように思われた。そのばかばかしさは、笑いはじめたらもう止まらぬほどの笑いに備するものに思えた。

学校中が付近のジャングルを揺るがすほどに笑い転げるには大した時間はかからなかつた。笑いはジャングルを越えた他のスクールにも飛び火した。そうして、この独立したばかりの未開国の少女という少女が、天を仰いでゲラゲラと笑い出したのである。

突如として國中の少女たちに蔓延したこの奇病に驚いた国連では、急遽大勢の医師や学者を派遣して、病因の究明と治療に乗り出した。医師たちは首をひねった。笑いのビールスは、どう培養しても彼らの試験管には出てこなかつたから

である。

だが、笑い転げながらも、少女たちのうちの聡明な何人かは、この奇怪な笑いのビールスが、数年前ふいに轟音とともにジャングルの緑をかすめて舞い降りた、巨大な銀色の鳥によって運ばれてきたものであることを感知していた。

それまでの少女たちは、褐色の裸身を恥じらうこともなく太陽に曝し、ジャングルの果実を思うがままに漁って暮らしてきた。それが、あの日から変わったのだ。いや、変えられたのだ。

巨大な銀色の鳥から出てきた珍妙な人間の一群は、国連から派遣された調査団の一行であった。やがて彼らは大量の医師、宣教師、教師、技術者たちと、ブルトーザーやクレーン車や夥しい機材をジャングルに送りこんできた。

緑の原野が切り拓かれ、そこに教会ができ、学校ができ、病院が建てられた。開校式に招かれた派遣団の団長は、満足気に少女たちに向かつて、

「今日から皆さんは文明の恩恵に浴することができるようです」と

胸を張った。

少女たちがそこで教えこまれたことは、アダムとイブの無花果の葉の由来であり、血塗られた人類の歴史であり、あの銀色の巨大な鳥が飛行機というものであることであつた。

そして、文明がついに原爆の恐怖をつくり上げたことを知ったとき、少女たちは、突如笑いの衝動に教われたのであつた。

ひとりの精神医学者が、彼女たちの病因を探りだした。

「文明の急激な押しつけによる集団ヒステリー症状」というのがその所見と病名である。

だが、少女たちの笑いの根源が本当はどのような病名をつくり出した学者たちをも含めたところの文明そのものに対する不信と告発の△晒し△であつたことに、学者たちは誰ひとり気付かなかつたのである。

\* \* \*

これは二十数年前、アフリカのタンガニーカで実際に起こつたことです。

特別寄稿

### 子どもたちの進路問題雑感

堀川愛生園々長 飯田 進

先日所用で上京した折、この三月に高校を卒業し東京方面に就職している子どもたち四名に逢ってきました。その日は梅雨明け間近とはいえず、中国地方では水害による大きな被害の発生が報じられ、強い風雨に荒れた日でした。

今年三月に高校を卒業した子どもは、六名ですが、東京方面には五名就職しました。

そのうちの一人は、都心から一時間半もかかる遠方であるうえに寮の門限も厳しいということなので連絡をとらず、他日あらためて逢いにいくことにして、今回は四名に逢うことにしたので、四ヶ月振りの再会ということで、四名とも万障繰り合わせて参集したいという連絡がありました。

日曜日というのに、何人かは勤務があるということで夕方六時に集まる約束でしたが、それでもひとり、夜八時半までの勤務で九時を過ぎないと来れないというこ

とでした。場所さえ決めておけば何時に来てもよいように、私の宿舎をあてることにしました。ある子どもは私の出席した教会の方に尋ねたようですが、礼拝終了後三十分遅れて来たらしく、とうとう逢えず、夕方まで教会で待ったようです。聞けば、駅を出て反対の方向を行ったため、一時間近くも雨のなかを探し回ったそうです。

おそくなる予定だったC君は、店長に事情を話して早く仕事を終え七時頃やって来て私たちを驚かせた。また、早く来る予定だったD君が一番遅く、十一時過ぎにやって来て皆をヤキモキさせました。

子どもたちは、  
○子どもたちの場合——  
A君の場合——  
小学四年生の時入園。措置書には「家出・放浪・徘徊」と理由が記されていました。母子関係が極度に悪化していて、母親に対して憎悪感情を持っていました。さらに、てんかん性の脳波異常があり

を希望して就職しましたが、赴任してみると、あるスーパーマーケットの出店の販売部門に回され、話が違つので辞めたいと、就職当初は再三泣いて訴えてきていました。大変心配で気掛かりでしたが逢って話をよく聞いてやると満足したのか、製造部門への転職の思いは少し整理されたようでした。

「お分休みには園に帰るからね」と言い残して去って行きました。  
○子どもたちの進路は  
ここでは、敢えてこの春卒業した子どもたちの進路をとりあげてみました。養護施設の子どもの進路問題について考えてみたかったからです。

最近とみに養護施設の全国組織部内でも、進路調査や研究活動の中でこの問題をとりあげ、さらに今年からは、中学卒業児童のための自立援助ホームの設置など、進路問題が大きくクローズアップされてきているのです。養護施設の

一貫性養護の立場から考えると、今更という気がしてなりません。家庭に帰れない子どもたちや、中学を卒業しただけで自立の困難

就職直前まで投棄治療を受けていました。就職二週間前に、突然、「肺気腫」のため緊急入院して手術をするさわぎとなり、皆より遅れて赴任した経緯があり、元気で一段と逞しくなった姿を見せた時は、心からホッとしました。

小さい時からトラックが大好きなA君は、念願が叶って都内の大手の運送会社に就職が出来、張り切って仕事をしているようです。  
——B君の場合——  
一歳九ヶ月の時、乳児院からの措置変更で入園してきました。B君が出生する以前に父親が家出して、所在が不明となっていました。病弱であった母親は、精神的な発達遅滞も認められ、子どもの養育が出来る状態ではなかったため、入園してきたのです。その母親もB君が高校一年の時再婚し、幸せな家庭生活を送っています。養父とB君には実の親以上の信頼関係が見られています。  
B君は、早く技術を身につけて社会的な自立を希望して水道工事会社に就職しました。今は設計図の整理や事務の手伝いをしながら

たまには工事現場に手伝いに行っているようです。一番苦手なのは電話の応対なんだと、こぼしていましたが、雨のために早く終わったのだといっておりました。

——C君の場合——  
C君は小学五年生の時に入園してきました。有名な組織暴力団の配下組長であった父親の「虐待」が理由でした。三人兄弟の末っ子で、養母と折り合いが悪く、反抗し、家出・徘徊を重ね、それを父親がとがめ厳しい体罰を加えていたというものです。父親を極度に恐れ、人を見て態度を変え、人間不信を強く示していました。中学二年のとき、愛生園の分園のグループ・ホームに移り生活するようになり、見違えるように子どもらしさを取り戻し、高校では、空手部の部長や生徒会の役員として活躍していました。今は、仕事に打ち込み燃えている様子がビシビシ伝わり、安心させられました。

D子は三歳三ヶ月の時入園してきました。四人兄弟の末っ子です

な子どもたちのことを考えると、高校進学を真剣に考えざるを得ないと思うのです。  
今日の社会で中卒で就職した施設出身の子どもたちが、どのような立場に置かれているのかを、誰よりも身に沁みて解っているのは養護施設関係者だと思います。そうであるのに、養護施設で中学を卒業した子どもたちの進学率は各種学校・定時制高校も含めて50%台であり、公立全日制高校については30%を超えられない状況であると各種の調査資料は報じています。全国の高校進学率が94%である現実の中で、養護施設の子どものそれを比較するまでもなく慄然たる疑念を抱かざるを得ません。

○堀川愛生園では  
子どもの施設でも多分に漏れず、多くの中卒の子どもたちによる職場不適應、生活不適應などの苦い苦い失敗の連続の結果、根本的な進路のあり方を検討し、現在のようにならざるを得ないという基本路線を打ち出しました。  
中学三年になっての入園や卒業

延期で中学に留年している場合などを考えると、高校進学の可能性など進路指導の困難性はよく解ります。しかし、子どもたちが一生を左右しかねない人生の岐路に立っているとき、その人生に関わった者として、進路指導は難しいと他人事のように言って済まされるものなのでしょうか。

養護施設の子どもたちは、家庭的、社会的など多くのハンディを持っていきます。家庭で生活出来なかったことに加えて、中卒ということを加えて、中卒ということがないよう祈る思いです。

前述の子どもたちは、全て高校進学が危ぶまれた者たちです。私どもは一对一の関係で意欲をとり戻し、学力をつけ、自信にしていることに懸命にとりくみました。子どもたちは確実に変わり、私たちの努力に反応を示し、自ら向上しようとする埋もれていた力を表現するようになっていったのです。

☆ ☆ ☆  
生きるために苦闘している卒園児たちに逢い、施設養護の責任を更に考えさせられました。

現場から

# 光の子らしく

13

岩崎 まり子

短かった夏が過ぎ、萌季ちゃんは三センチ、燦ちゃんも二センチ身長が伸び、子どもたちの身体は確実に一回り大きくなりました。また、新しい季節のなかを歩み始めています。

皆様のこの夏はいかがでしたでしょうか。光の子どもの家の夏はどの子どももより豊かになって、二期を元気に頑張れるよう、子どもに応じた行事や日常生活を計画して迎えます。とりわけ、家族のもとへ帰省できない子どもへのとりくみは大きなテーマです。

担当者ご自身が泊まりに連れて行ったり、一緒に外出したりすることなどで対応しています。

燦ちゃんは、鎌田おぼちゃんの家へ、萌季ちゃんは、横浜の私の実家へ連れて行ってお泊まりするのが常でした。この二月に悠子ちゃんが加わったこともあり、この夏は仙道家で何か計画して対応しようと考えました。

仙道家には、十一人の子どもの生活しています。その中で帰省できない子どもは、萌季ちゃん、燦ちゃん、悠子ちゃんの私が担当する三人だけです。たかが三人、されど三人。親や家族がたまには訪ねてくれるのに帰省できない矛盾

親や家族と暮らせない日常的矛盾関係と血の濃淡が必ずしも一致しない矛盾。矛盾の多い環境を、この幼さで甘受している子どもたち嬉々として家族の許に帰省する子どものそれには敵わないにしても、きらめくような時間を創る計画をして、バランスすることを願

い、家会議に諮りました。早くから職員会議で言われていた、職員友人である湯河原町の府川様の離れの利用の提案があり、湯河原海岸での浜遊びを計画することにしました。

府川様のご協力により、計画もまとまったある日、子どもたちにこの計画を話してやりました。

「えーっ海！萌季ちゃんも？」

「うれしいな、燦ちゃんも！」

「悠子ちゃんも、海行く？」三様の素敵な笑顔を見せてくれました

計画の八月十二日はじわじわとやって来て、生憎の雨模様の中を車に揺られ、夢に見た湯河原海岸と、府川夫人に迎えられました。

翌日は、絶好の海水浴日和、総勢六名で海岸へと繰り出しました。海は初めての悠子ちゃんは、浜におりた途端、キャーと歓声を上げ萌季ちゃんも燦ちゃんも笑顔で続きます。この日まで、幼稚園や家のプールで鍛え、少しは自信のあった萌季ちゃん、燦ちゃんも自然のスケールに呑まれてしまったのでしよう。波打際に入った途端、火がついたように抱っこしている腕の中で泣き出してしまいました。

お姉さんの燦ちゃんに泣かれた悠子ちゃんも。仕方なく涙で砂遊びしながら様子を見ていました。これでは、これまでと同じで進歩がありません。意を決して、怖いもの知らずの燦ちゃんから、そして、負けず嫌いの萌季ちゃんと順番を決めて海水や波に慣れさせよ

うと、浮輪を使って胸まで位のところで遊ぶことが出来るよう、手をかえ品をかえて試みました。

ほとんど二人ともすっかり波と遊ぶことができるようになりました。それにつられて悠子ちゃんも「バシャバシャ行こうよ」と波遊びをせがむようになりました。

二泊三日のこの計画で三人の世界が確実に広がったと思います。そして今、何のこともなくこのでの△日常▽が続いていきます。親が傍にいないことが日常の子どもたちにとって、自分は何者なのか、自問していく私の日常も再スタートです。△身近な他人▽に囲まれているこの環境の中で、大切なものを見失わない子どもであって欲しい。心からそう願います。

自分が何者なのかは、隣合う他者との関係のなかで決まることを思わされているこの頃です。

府川様ご夫妻 戸部・黛・太田様たち、そして、坂口様ご夫妻などの善意に満ちたご協力によって、このような△行事▽ができました。たくさんの方々のご好意によってこの夏も彩られました。感謝。

☆回折光

# 『光の子』によせて

賀来 美津子 (元養護施設保育)

毎度のことながら、お働きには尊敬と感謝の年で一杯です。

『光の子』第十七号を拝見致しまして、心の底からふるえる様な感動を覚えました。養護メモ「辞める」という一文です。

△退職▽という本当に私たちにとって嫌な響きの出来事を、職員の皆様、特に館山さんと岩崎さんの心暖まる思いやりで、乗り越えようとなさっているお姿、本当に嬉しく思います。こうあらねばならないとおもいます。

人が辞めてゆく度に、そして自分が辞めてゆく時、どんな嫌な思いを体験してきたか、そこに、弱い信念であった自分の姿を思い出し、ついつい後悔してしまいます。昨夜から、住み込み先を飛び出してきた子どもが、今、ここにいます。三月末で五名中三名の保育士さんが辞めてしまいました。子ども同志の話で「〇〇がいやになっ

たから辞めたんやあってー」など見るみるきれいになってゆくからと聞かれますと、心が痛みます。施設が嫌でも自分の意志ではどうすることもできない子どもたち。それぞれ理由はあっても、自分の意志で辞めて出てゆける私たち。このどうしようもない差を埋めつくせるのは、形のない△愛情▽ではないのではありませんか。施設の中にいる時は、十分に見えなかったものが、少しだけ見え

☆回折光

# 光の子どもの家を訪ねて

梓沢 あづさ (俳人)

不思議です。独占できる愛情はこんなにも子どもたちを愛えてゆくものか、唯々おどろきです。

貴施設の子どもの表情が素晴らしいのは、きつと満たされた愛情にあるのでしょう。いつの日

庭をめぐらす枕木のアイデアは、私の心を捉えたようです。一昨日は、明るく伸びのびした光の子どもの家を拝見させていただき、また、この足で、しかと庭土を踏み、子どもたちとおいしい食事を共にし、しかも、私は、あのお祈りをした坊やと握手をして

参りました。感激も新たなです。本当に貴重な体験をすることができましたこと、嬉しく存じます。私も、福岡市へ娘を嫁がせて四才と二才の男児の孫がおります。特に下の児は、生れて一ヶ月目に

か、光の子どもの家が、本当に、世の光になる、そう信じて疑いません。素晴らしいお働きに心から感謝致します。

そう、私にとってはすでに『光』だからです。

大病を致しまして、現在また歩行訓練中です。言語も神様に預けてあります。そういう考え合わせてみても、そちらのお子たちは幸せです。立派な環境にあってしかも五体健全であることは、ありがた

いことと感じております。常に情熱を持ってご指導に当たっておられる若い職員たちのもと、素直で広く暖かい心の持ち主に育っていくことと思います。

私共には、縁の下の力にもなれませんが、これからも応援していきたいとぞんじます。ご迷惑とは存じますが、又伺わせて下さい。青田風「光の家」を抜けて土手

# 輝きのかたち

池田 祐子

現場から

明けそつで明けない梅雨にイライラしていた六月下旬、原田家に台風のようにエネルギーいっぱい五才と三才の入山兄弟がやってきました。この兄弟の乱暴なエネルギーに子どもたちは圧倒され、大きく揺さぶられました。特に、高雄ちゃんは自分を上回るエネルギーの持ち主に戸惑い、自分の位置も揺り動かされてしまい、「高雄ちゃん！」という怒鳴り声がついてまわるようになりました。

それでも、子どもたちの関係はいつの間にか、仲良くプールではしゃいだり、虫捕りの網で小川の魚を追いかけたりしながら乱暴が治まっていきます。

そんな頃、待ちくたびれた夏休みがこのこやつて来ました。雨で緑が美しい軽井沢の高原をタカラクラブのご好意で満喫し、茨城の大きな海に怖じ気づいていたけれど、真っ黒になるほど海と仲良しになりました。

そんな高雄ちゃんに、この夏一番の贈り物がやって来ました。お盆休みのパパがやって来たのです。寂しくなったり、哀しくなったりたくさん我慢をしなければならぬ生活のなかで、高雄ちゃんは、堪らなくなるときまわって指吸いをします。年令のわりには身体の発達の良い高雄ちゃんが、大きな赤ん坊よろしく、指をくわえている姿には胸が痛んでしかたがありません。そして何もしてやれない自分が情けなく思え、落ち込んでしまい、更に高雄ちゃんの不満をつのらせてしまつたのです。

パパとお家に帰り、三つも寝ていっぱい甘えて帰ってきました。だから、指吸いはもうありません。「パパ一生懸命働いたお金でロボット買ってくれたの」と大事そうにかかえて、呟くように話してくれる高雄ちゃんに、誰よりも大事なパパへの想いを感じさせられませんでした。私たちだけでは高雄ちゃん

寂しさや悲しさを癒してやることはできません。親や家族との信頼関係を基にした共同の養育がどうしても必要なのです。

八月十六日に五才の誕生日を家のみんでお祝いしました。二日前に六才になった将司君と一緒に祝いでしたが、やっぱり高雄ちゃんも自分が主役。家の保母三人と五年生の久美子に手伝ってもらった手作りのケーキに大喜びです。佐藤家や仙道家からお友だちのそれぞれ思いをこめたプレゼントがいっぱいです。皆からのお祝いの言葉も「やさしいお兄ちゃん・・」「優しい高雄ちゃん・・」と言ってくれます。「ありがとう」と返辞しながらうれしそうです。

「〇〇さんからの・・ですありがとう」と、プレゼンを職員の間で己君に手伝ってもらって言葉を解いて披露しました。顔をクシャクシャにして「今日は誕生会をひらいてくれてありがとう。幼稚園でがんばります」と最後の挨拶も上手です。

一志ちゃんは、そんな中、トイレでウンチをはじめて出来るようになりしました。ケーキを奮発してみんなでそのことをお祝いしました。翌日、一志ちゃんは、「祐子さん、一志ちゃん今日もトイレでウンチできたからケーキにして」と言ってきました。世の中そんなに甘くはないよね。一志ちゃん。深子ちゃんの幼稚園の先生が、「目が少し悪いのではないでしようか」と五月の末に言って来て下さった。気をつけて見るとやはり不自然な目の動きや動作があり、お医者さんに行きました。目のことなので慎重に診察をしていただき、七月には眼鏡を使いはじめました。劣等感を持たないように「素敵だね」「かっこいい」と家ばかりでなく幼稚園でも協力してもらい、本当にすてきな女の子になりました。高雄ちゃんが家に帰ったとき「高雄ちゃんいないと寂しいね」ラジオオラスの音を見て「もう少しで咲きそう」と情緒が揺れて成長してきます。豊かな子どもたちの成長に、引つ張られて実りの秋を暮らしています。

養護メモ 17

# 自立

菅原 哲男

養護施設光のこどもの家は、家族と共に暮らすことの出来ない子どもたちが、△暮らし▽を自らの力で創り上げられるようになることを願って建てられた。

「自立」とは、自分で自分の行為を規制すること（広辞苑）である。自分の理性に基づく意志のみで自らの行為を決定することは、多くの場合不可能に近い。このことを教育や養育など人に関わる者は、確認しておく必要がある。

胎児は母体から自立するために母体の中で成長し、乳児は離乳するために乳を摂る。幼児は様々な介助から自立するために介助を受け、学童は、大人の保護から自立するために教育・養育などの保護を受けていると考える。

人としての自立は向かうべき最大の目標であるだろう。

養護施設のあらゆるとりくみは何よりも先ず、子どもの社会的自立をめざして為されるものである。

身体的自立、文化的自立、経済的自立、精神的自立などを総称して社会的自立を捉えたい。この社会的自立をよりよく果たすためにこそ、光の子どもの家のすべてが機能し、その機能が統合されて働いていかなければならない。

非行の集団がやってくると、施設開設反対の嵐のなかで、経済的な見通しの全くないまま、二年間の幼稚園での就学前教育の保障をして、小学校入学に備えた。

五才になるまで乳児院にいた嬉しと鷹文、溺愛された母親と突然離別の加津子、父が死亡した滋の四人が昨年入学した。幼稚園ではまずまずの様子だったので、そんなに心配もなかった。

最初の学校からの家庭訪問。先生のご苦労が洪水のように私たちに浸した。授業に全く入れないという四人である。学校生活が極端に下手であり、集団からはみ出してしまつ彼らの状況。学校の先生

は、光の子どもの家の職員の抑圧を学校で解放しているのではないかと疑っていたようである。

抑圧的な対応が全くないとは思わないが、開設当初は反対運動との関係で△所は幼児のみで、受容が主体の対応が全てであった。学校への教育や訓練は幼稚園にお任せして、子どもたちが経験し得なかったか、極端に少なかった△大人との安定した信頼関係をめざした△徹底的な受容▽△信頼の涵養▽を願ひ懸命にきていた。

私たちは徹しい反省を迫られ、子どもたちの状況を分析し直して整理し、対応することになった。大人との一対一の関係創りが大きくて周辺のことが見えなかった。ひらがなの獲得も不十分。年令に相応しい社会性が身につけていない教育・訓練面でのとりくみ不足も明らかになった。

担当者との受容を主体にした関係を更に強化し深化させながら、一年生の四人で一つの集団を形成していく。共通の目標とそれへ到達するための内容や経過を明確にしてとりくみ直した。

光の子どもの家は長方形の敷地を隈どるように建物建っている。中庭は、枕木の渡り歩道が各家や食堂、事務棟などをつないでいる。園庭の中央には、大きな樺の木が立ち、その根本から放射状に枕木が回りの歩道に向かって伸びている。この樺を中心にしたクローバーの緑が美しい園庭の北側約300㎡は、光の子どもの家の中心をなす重要な位置である。

昨年の夏休みにこの部分の管理を職員と一緒にすること、そのご褒美に、どこかへ旅行することを四人の子どもと話合つて決めた。彼らはよく働いた。草を取りごみを拾い、立派に管理している。昭和五五年生まれであることからGOGO会と名称をつけて二夏が過ぎた。職員が管理している部分よりはるかに行き届いている。

昨夏、裏妙義、筆頭若一金鶏山の絶壁の鎖にしがみ、馬の背のような山頂で足を凍ませながら赤城榛名など上州一円を眼下にした。秋には、奥秩父の民宿に遊び、三峰山を徒歩で登った。

(この項つづく)

日誌抄

七月二日、  
九月三十日

七月二日 夏休み！素晴らしい

体験と美しい思い出をつくら

うと夏休みオープンングフェ

スティバル。園庭でバーベキ

ューの夕食と計画の披露と。

二四日 夏期行事第一弾！幼児さ

ん一六名が軽井沢へ。タカラ

クラブのゲストハウスへ。雨

と晴との四日間。高原の風と

緑を満喫。ありがとう。

二九日 夏期行事第二弾！一年生

く三年生の九名が八ヶ岳の天狗

岳征服の三日間。三〇日、降

り籠めていた雨も晴れ、白駒池

中山峠を経て、目指した天狗は

体力や時間を考慮し断念し後日

を期す。緑池―白樺尾根―白駒

池到着は、遅い夕闇の頃。八時

間もの岩山道に汗と涙と歓声を

記す。倉沢お父さんお母さんに

迎えられ、割烹「いろは」で心

づくしの夕食。ありがとう。

八月四日から東大宮教会CS夏期

学校。那須高原で聖書と友だち

と自然がいっぱいの三日間。

五日 夏期行事第三弾！茨城の平

井海岸に原田家の幼児八人が

晴天の一日。真っ黒になって。

六日 大宮ロータリークラブの五

名ご来訪。見学と交歓の時を。

七日 この頃からお盆帰省が始ま

る。家族に迎えられて久し振り

の数日、甘えと交流をたっぷり

家族調整の効果を確認の旬日。

十日 夏期行事第四弾！この日の

ために五月から敷地整美の三月

余り、汗した結果の大島行。四

年生く六年生の五名。海のない

県からでっかい海原の中に浮か

ぶ大島へ、台風までが歓迎の三

日間。海に浸かり海を味わう。

十二日 この頃は残っている子ど

ももわずかとなる帰省のピーク。

夏期行事第五弾！仙道家の帰省

できない子ども三名が湯河原の

府川勝臣様ご夫妻の、六年と五

年男子二名が坂口金造ご夫妻の

ご厚意で湯河原海岸に遊ぶ。す

っかり波と戸辺さん黛さん府川

坂口ご夫妻と仲良しに。太田さ

んにも。思い出を一杯。感謝。

十二日 栗原造園植木剪定ご奉仕

暑い中ありがとうございました。

十三日 栗橋町のピエロさん、た

くさんパンをありがとうございました。

十九日 夏期行事第六弾！佐藤家

全員が予定していた奥長静キャ

ンプを台風のため断念。筑波山

登山を決行。三才の女の子も完

全登頂。ばんざい。

二十日 大利根剣友会昇級審査

飛び級で四級の六年男子。

二二日 江森理容店修整ご奉仕。

毎月ありがとうございました。

二八日 熱烈ご支援のアップルク

ラブ来訪してドッグショウの暑

中お見舞い。犬と仲良しの午後

をありがとうございました。

三〇日 さよなら夏休み大パーテ

ィ。四〇日間の成果を報告しバ

ーベキューの夕食会。二学期へ

向けて決意も。

九月一日 元気に二学期開始！

開設当初からご支援の流山の桜

間さん来訪。子どもの成長と元

氣を喜んで下さる。感謝。

九日 連絡協議会実施。

十一日 狭山シャローム教会より

来訪して励まされる。この間も

多くのご支援が。感謝。(くじ)

反射光

ゆっくりと流れる  
大利根を見送る芒  
が銀色に波立って

います☆四年目の歩みも後半に入  
り最初にやって来た子どもに「お  
前が小さかった頃」の話をしてや  
って笑い合う時も持てるようにな  
りました☆これまで寄せられた  
お励ましとお祈りご支援には筆舌  
に尽くせない感謝の思いに胸塞が  
れます☆そんな思いを込めて第四  
回目の感謝の集いを催します。子  
どもたちともどもおもてなしをし  
感謝と交歓のひとつきにと願いま  
す☆地盤の沈下の激しさには驚か  
されています。春から上下水道管  
の損傷等が続き対策に苦慮します  
☆栗橋町の村松塗装店の内装のペ  
ンキ作業のご奉仕や利害を超えた  
羽鳥設備、高沢工務店のご協力に  
は底をついた修繕費を大変助けら  
れ感謝です☆汚い株でボロ儲けの  
政治家や財界人の話題がマスコミ  
に登り、何のために財や能力を用  
いるかを見誤った人間の姿をそこ  
に見ます☆何のための光の子ども  
の家かを見失わないよう心して励  
みます。更なるご支援を！(哲)